第八話　キツネが負ぶさってくる

酔っぱらったおとうさんが、小さい子を負ぶって山道を下りていたんだと。

そしたら、背中の子どもが、

「おどっつぁん。おれの背中に猫っこ、負ぶさってきたや。おっかねえ」

って言うんだと。

「ああ、なんでもねえ」

おとうさんは、そう言ったけど、それがキツネだってこと、わかっていたんだと。

酒飲んだ人に会うと、キツネはよろこんで、その背中さ乗っかっ

てくるんで、おとうさんは何回もキツネを負(お)んぶして歩いたことがあったから、わかってたんだね。